

丹波市立看護専門学校関係者評価委員会

開催日時 令和4年5月27日（金） 13時20分～14時55分
場 所 丹波市立看護専門学校
出席者 （委員長）実習施設職員、（副委員長）本校の卒業生、本校在学生の保護者、地域住民、校長
事務局 健康子育て担当部長、副校長、事務長、教務主任、庶務係長

主な意見等

【IV教授・学習・評価過程】

- ・学校で学ぶのは点。臨床では患者さんを通して線にしていくことを教えている。新カリキュラムはそこも加味し、事前学習も取り入れられている。

【VI入学】

- ・ネット社会。そこでいかにキャッチできるか。
- ・ポスターやパンフレットもいかに目を引くか。
- ・オープンキャンパスは魅力的。偏差値だけでなく雰囲気や友達の関係性などで選ばれることも多い。
- ・少子化もあるが、1回は都会に出たいという思考もあるのではないか。それを呼び止められる学校の魅力が必要。
- ・トライやるウィークの参加希望もあり、中学生に興味を持ってもらうことはいいこと。今後も継続を。
- ・遠方の学生が受験しようと思えるPRが必要。
- ・地域と交流を図ることで魅力になるのでは。
- ・都会の学校で学んで地元丹波へ帰ってこられる新卒者は少ない。当校の学生確保が重要。
- ・看護職は学歴社会ではない。免許は同じであとは実績評価。高校の先生にPRが必要。
- ・大学等において年内合否が増えてきており、そういったところも受験者数の減に影響している部分もあるのでは。

【VII卒業・就職・進学】

- ・コミュニケーション能力が弱いということであるが、高齢の方と一緒に住むことが少なくなっており、コミュニケーションがうまくできなく会話がつながらないことが増えてきている。高齢の方とコミュニケーションをするきっかけを作してほしい。
- ・高齢者の方の間の長い話を聞くことが苦手、苦痛という方がある。高齢の方とコミュニケーションをとる経験がないのであろう。
- ・いきいき100歳体操など高齢者に関わる実習が、新型コロナウイルス感染症の関係でなくなり残念。

※以下に、自己点検・自己評価の総評を掲載

自己点検・自己評価 総評

【 I 教育理念・教育目的 】【 II 教育目標 】

現代社会は、価値観の多様化、高学歴化、情報社会となっていることから、高度な医療技術や安全・安心な質の高い医療サービスの提供などが求められている。また、当校は市を設置主体として、「市内の医療機関や介護施設等への看護師確保対策」を目的に学校が設置されていることから、丹波市内や近隣の市町へ就職し、地域に貢献できる看護師の育成が求められている。

これらを踏まえ、教育理念では、丹波市の理念である『丹(まごころ)の里』を基盤として、①丹波市への愛着と誇りをもち、人としての思いやりのある看護師を育成していくこと ②丹波市内の病院を始めとして近隣の施設や地域で活躍できる看護師を育成すること ③的確な状況判断のもとエビデンスに基づいたアセスメントをし、対象に応じた看護が実践できる看護師を育成していくこと を掲げている。学校のポリシーは、①求める入学生像 ②カリキュラム編成の方針 ③卒業時の姿 ④教育の検証・評価の指針 として示し、到達すべき方向が理解できるようにしている。

教育理念、教育目的、教育目標は、教員・学生への指針となっており、令和3年度の卒業生の87%が兵庫県内に就職し、そのうち49%が丹波市内に就職している。丹波医療センターや香良病院、大山記念病院等の実習病院への就職は54%であった。今年度は、丹波医療センターの病床拡大に伴い、丹波医療センターに就職できた学生が多かったことが、丹波市内への就職率上昇に繋がっている。また、地域の特徴を知る授業として『地域魅力発見』を実施し、フィールドワークで学生が主体的に丹波の魅力进行调查した。アンケート結果から、「丹波市在中であっても知らないことが多く、丹波の魅力を発見できたことがよかった」などの意見があった。今後も、丹波市の魅力や特徴を実感し、市内に就職してくれる卒業生を増やしていく事が必要である。

【 III 教育課程経営 】

教育課程は、基準カリキュラムに基づいて、基礎分野、専門基礎分野、専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱ、統合分野の5つから編成し、国家試験の受験条件である『97単位・3000時間以上』の学習時間を確保し、『101単位・3015時間』で構成している。

カリキュラムデザインは、学生が学習内容を理解しやすいように、漸進的カリキュラムデザインを選択し、総論から各論、単純なものから複雑なもの、抽象から具象へなど、基礎分野、専門基礎分野で学習したことを基盤として専門分野に繋がられるように考慮した配列としている。

はじめて医療に関する学習を進める上で、学習内容が理解しやすいように配置できていると考えるが、講師の都合で科目内容が思うように進まない場合もあり、専門分野の内容が先行することもある。逆思考での学習ではあるが、振り返りとなり問題はない。

【 IV 教授・学習・評価過程 】

授業科目に関しては、科目ごとにシラバスを作成し、科目目標、学習内容、学習方法、使用するテキスト、成績評価の方法を記載し、学生に提示している。学習が効果的に進むように、関連のある内容をまとまりとして配置しているが、講師の都合、科目の進度によって開講時期が離れてしまうことがある。できる範囲で科目のくくりを近い時期に開講できるように科目配置をする

必要がある。

専門分野の授業科目は、領域別看護学の担当者が中心的に担い、年度末に担当する看護学の内容を評価することで、看護学の領域や関連科目の領域での科目の重複や不足を確認できている。また、各自が責任をもって1つの領域看護学を担当するため、タイムリーな変更ができています。

【 V 経営・管理過程 】

設置主体が丹波市であることから、県からの補助金、市の税金・地方交付税、学生の入金金・授業料などを財源として運営が行われている。

令和元年9月に校舎を新築移転したことで、学生がリラックスできるスペースや自己学習ができる場所が確保でき、教室、実習室のスペースも広くとることができ、学習環境は整っている。また、遠方から入学している学生に対しては、ワンルームマンション形式の学生寮を整備し、遠方からの学生を支援している。

実習施設は、同敷地内にある県立病院を中心に、公共交通機関で通学できる場所、通学時間が1時間以内の場所に確保し、学生の金銭的負担、時間的負担に配慮している。今後もできる範囲で近隣での実習施設の確保をすすめていきたい。

【 VI 入学 】

学校が求める学生像のアドミッションポリシーを作成し、それに基づき、11月に地域枠入学試験、1月に一般入学試験を実施している。入学定員40名に対して、地域枠入試は5名程度、一般入試は35名の入学を許可している。試験実施までに入学試験委員会を開催し、前年度の評価を行い問題点や改善点を明らかにして、試験実施に関する内容を検討、決定している。

今年度は受験者数の減少が顕著で、例年の20%減少が認められた。少子化による18歳人口の減少に加え、大学進学希望者が増加していることが考えられる。課題として、受験者の確保対策を企画・運営することが急務である。次年度は、地域枠の範囲を広げ、社会人の取り込みを行うとともに、看護職の道を考える対象者を増やして、市内の学校への進学者を確保するために、中学生へのオープンキャンパスやトライやるウィークへの参加を企画していく。

【 VII 卒業・就職・進学 】

教育理念・教育目的・教育目標に従ってカリキュラムを運営し、学則に基づいて単位が取得できた学生に対して卒業を許可し、専門士の称号を授与している。入学した学生のうち年間1%は退学しているが、その理由の殆どは、学習を進めた上で、この仕事が自分に合っているかどうかを見極め、自分の進む方向を変えるための方向転換である。

学生が能動的に主体的に行動できるように、グループディスカッションができる演習室・研究室を複数設置し、アクティブラーニングができる環境を整えている。他者との意見交換をすることで、自ら考え、判断し、行動できるように、アクティブシンキングの思考の育成に力を入れ、現代の若者の弱みを強みに変換できるようする必要がある。

令和3年度の国家試験合格発表の結果は、全国の合格率が91.3%、新卒者の合格率が96.5%で、当校は100%であった。また、昨年度不合格であった卒業生2名も合格していた。国家試験対策は基礎的な知識の定着に有効であると判断できるため、継続して実施する必要がある。

今年度の実習も、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、臨地での実習時間が減少し、臨地実習38%、学内実習62%であった。受け持ち患者を通して机上学習と現場での体験を結びつける機会が少なく、状況を判断する能力が弱いことが考えられる。また、異世代の方とコミュニケーションをとる機会が少なく、コミュニケーション能力が弱いことも考えられる。学内実習では、シミュレーション機器を用いて状況判断や観察をする学習を行っているが、リアリティさには欠けるところがある。今年度は、コミュニケーション力強化のため、漫才でのコミュニケーション講座を開催したり、模擬患者を招いての看護実習を実施したり、学校ができる範囲のことを行っているため、今後の学生の成長に期待したい。